

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0190200188		
法人名	社会福祉法人札幌東勤労者医療福祉協会		
事業所名	グループホーム東苗穂こすもす		
所在地	〒007-0813 札幌市東区東苗穂13条4丁目3-21 (電話) 011-791-6555		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年2月16日	評価確定日	平成22年3月9日

【情報提供票より】(平成22年1月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)21年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算	6.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000~22,500 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(2月16日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	73歳	最高	91歳

(5) 協力医療機 協力医療機関

協力医療機関名	勤医協中央病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、市郊外の住宅地に立地し、開設は7年目であるが平成21年に経営法人が有限会社から社会福祉法人に変更となった。管理者、職員は、利用者本位の地域密着型多機能を目指し、事業所運営に取り組んでいる。同じ建物にある併設のデイサービスとは管理者や職員、利用者が日常的に交流し、共同の行事も行って馴染みの関係を構築している。地域住民や家族の協力関係も良好で、事業所内は明るく穏やかで落ち着いた大家族のような雰囲気である。職員研修も年間計画に組み込み、レベルアップを図り、研鑽に努めている。

重点項目への取組状況

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	社会福祉法人として初めての自己評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員で記入し全体会議で話し合い、計画作成担当者がまとめている。自己評価及び外部評価で出された課題は、日々のケアサービスの実践に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月毎に開催し、事業所の運営状況活動状況を報告し、参加者と意見交換を行い、事業所運営に反映している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月「こすもす便り」を発行し、利用者の日常の様子や行事等を知らせている。便りの中に、個別の利用者についての欄も設け、家族へ詳細な報告をしており、信頼関係を深めている。職員は家族の来訪時、挨拶や声かけを心がけて気軽に意見、苦情などが述べられるよう配慮している。重要事項説明書には、公的機関の相談、苦情申し出窓口を明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は町内会に加入し、地域との連携を図っている。事業所での「こすもす祭り」は、近隣にチラシを配り、地域住民、利用者、家族、職員が一体となって賑やかに展開している。地域住民の協力で演奏会やバザーも行い、介護の講習会も開いている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆっくりゆったり自分らしくをモットーに、地域の中で家庭的な環境のもと、暮らし続けることを支援するという事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎月の部門会議の中で職員と共に理念の実践に向けて具体的な話し合いをし、理念の共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、町内会に加入している。職員は能力に応じて利用者と一緒に地域行事に参加している。認知症を理解する講演会を開催している。また、事業所の年に1度の「こすもす祭り」には地域の協力や多くの住民参加を得て交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と管理者は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、評価を活かして、より良いケアの実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月毎に開催し、事業所の運営状況や職員の研修状況、自己評価、外部評価の結果などを報告し、参加者の意見交換を行っている。運営推進会議で出された課題は事業所の運営、サービスの質の向上に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の運営や報告などで、市の担当者と連絡を取り合う機会は多く、連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「こすもす便り」を発行し、家族に事業所での利用者の様子や行事などを知らせしている。便りに個別欄を設け、利用者の個別の報告をするなど家族との信頼関係を深めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族が意見や苦情等を気軽に申しやすいように、来訪時に声かけや挨拶を心がけている。また、玄関には意見箱を設置し、重要事項説明書には公的機関の苦情申し出窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内の職員の異動は年度計画に基づいて行い、利用者との馴染みの関係を損なわないよう配慮している。併設のデイサービス、認知症デイサービスとの交流も多く、日ごろから利用者、職員は声をかけ合い話をするなど馴染みの関係を構築している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は年間計画を立て取り組んでおり、職員の段階に応じてトレーニングを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市、区の管理者連絡会に参加し、情報交換や研修の機会を持ちネットワークを築いている。また、事業所同士で行事に招待し合い、サービスの質の向上に反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、家族、本人の見学や話し合いを何度も行い、事業所の雰囲気に馴染めるよう工夫している。また、管理者は利用開始前に利用者の家庭訪問を行う場合もあり、生活の様子などの把握に努めている。また、併設のデイサービスから移行する利用者も多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、利用者一人ひとりの立場に立って一緒に過ごしながら、個別の関係作りに努め、互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の暮らしの中でその人らしさを大切にし、利用者の生活歴や家族の話などから思いや意向を汲み取るよう努力している。		
職員は日々のくらし					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要なかんけいしゃと話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員は利用者の担当を決めており、一人ひとりの暮らしぶりから好みや希望等を把握し、家族の意見も取り入れ、カンファレンスで検討しながら、具体的な介護計画を作成している。できあがった介護計画は、家族が確認し、認印またはサインをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は年2回の見直しを行っている。見直しの際には訪問診療、訪問看護からの意見も考慮している。また、利用者の状況に変化が見られた場合には、その都度見直しを行い、現状に則した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスへの参加や健康管理、合同の行事など、利用者や家族の希望に応じて、柔軟に事業所の多機能性を活かしている。利用者とデイサービスに通う人との顔馴染みの関係も構築している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所では、毎月2回定期的に訪問診療、訪問看護を受けている。利用者家族の希望する診療があれば取り入れ、個々に適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所では重度化や終末期医療についての指針を作成しており、利用開始の前に示している。また、早い段階から利用者や家族、かかりつけ医との話し合いの機会も設け、方針の共有も図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者と職員は、利用者一人ひとりの誇りを大切にし、言葉かけや対応に配慮している。トイレ誘導など、さり気なくそっと声をかけるなどの支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者のその日の状態や意向を把握し、持てる能力を活かすよう工夫し、日々その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。事業所としての大まかな流れはあるが日課を決めた生活はしていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員と一緒に会話をしながら、利用者の能力に応じた作業も取り入れて作り、楽しく食べることができるよう工夫している。介助の必要な利用者には粥や刻み食を用意し、ゆっくりと声かけしながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の体調を考慮しながら、併設のデイサービスの広い浴室を利用している。利用者同士で楽しみながら入浴することもある。週2回以上の入浴を目安としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、食器洗いや洗濯物たたみなど、利用者のできることを大切に場面を工夫して提供し、利用者の気晴らしや楽しみごとにつなげるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況に合わせて、散歩や戸外の行事など外出の機会を工夫している。事業所の敷地にある畑仕事も利用者の楽しみの一つになっている。デイサービスの人と一緒に作った野菜が食卓に色を添えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵はかけていない。居間の窓からは玄関の出入りが見えるようになっている。職員は、常に利用者のドアの出入りに注意を払っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。運営推進会議を通して地域住民にも協力を呼びかけている。	○	今後避難訓練については、夜勤一人の夜間を想定した訓練や、地域との連携、協力関係の具体的な取り組みを行い、災害時の備蓄も考慮した災害時対策が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立で、食材は外注となっている。職員が一人ひとりの状況に合わせた食事を作り、栄養バランス、水分量、食事摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ログハウスのような太い木の梁、柱が特徴のぬくもりのある共用空間である。天井も高く、大きなガラス張りの窓からは採光も豊かで明るい。キッチンに立つ職員の動きが居間からよく見える。壁には家庭的な作品や花を飾り、ソファでは利用者がゆったりとくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は使い慣れた家具を持ち込み、仏壇を置いたり、家族の写真を飾るなど、居心地よく過ごせるよう工夫し、その人らしい居室となっている。		

※  は、重点項目。